

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の特性や地域の実情を踏まえながら、単位制の利点を生かしたカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>②生徒の学習意欲の向上を図るとともに、基礎学力の定着と思考・判断・表現力を養うため授業改善の一層の推進を図る。</p>	<p>①単位制である本校の目指すべき姿を全職員で共通理解し、先を見据えた教育活動を実践していく。多岐にわたる選択科目を精選し充実させる。</p> <p>②アクティブラーニングの視点に基づく授業実践を学校の特色として維持するとともに更に深化・拡充し、授業力の向上を目指す。</p>	<p>①本校の生徒の特性を固定化せず、柔軟でかつ充実させた教科・科目を編成していく。生徒の個性を最大限に伸ばす工夫をするとともに履修指導を充実させる。</p> <p>②外部講師を招き、アクティブラーニング研修会を複数回実施する。各教科で考えた「深い学び」を意識した授業を各教員が実施し、検証する。</p>	<p>①3年間を通して生徒アンケートで、単位制の特徴を活かした授業選択の満足度が70%以上か。</p> <p>②学校で取り組むアクティブラーニング研修会を5回以上実施できたか。職員アンケートで、前期・後期の授業研究を通じて、70%以上の教員が課題発見・解決の能力が身についたことが実感できたか。</p>	<p>①3年次生に対してアンケートを実施したところ、2,3年次の授業選択について満足・やや満足あわせて89%であった。</p> <p>②4月に着任者に対して、本校のアクティブラーニングの取り組みについて研修を行い、5月には、著名なAL実践者の方を招き、実際に模擬授業を体験した。さらに6月にはALをテーマにした教員相互の授業見学を実施</p>	<p>①進路を決めていく時期と授業選択を決定する時期にできるだけ開きがないように、進路指導や履修指導を行っていきたい。</p> <p>②今後、「深い学び」をテーマとした「研究授業」を実施するとともに、外部講師を招き、研修を重ねる。生徒・職員にアンケートを実施し、効果を検証し、課題を発見する。</p>	<p>①授業選択に関して「不満・やや不満」に思っている生徒が11%であることは以外と低く大半の生徒が満足していることは、素晴らしいと思った。</p> <p>②「深い学び」の評価や測定方法等、できれば学校として明確な基準を設けることが望ましいと考える。今後、検証の仕方等検討してほしい。生徒の授業評価のデータをもう少し細かく取り、検証してほしい。</p>	<p>①満足度が高い理由としては、1年次からのキャリアガイダンスが自分の進路に合わせた授業選択を促していることであると考えられる。選択授業決定の時期等が課題である。</p> <p>②「深い学び」がテスト等でどう測れるのかは、各教科、各教員にゆだねられている。ただ、外部機関の新しいタイプのテストを導入し、様々な力を測ることにより生徒の変化を見ることができると考えている。</p>	<p>①カリキュラムGとキャリア支援Gと連携し、生徒の実情を考慮しながら検討する。</p> <p>②「深い学び」については、今後、外部講師等を招き、研修を実施していききたい。生徒の授業評価の4点評価については、さらに細かいデータがとれるよう検討していききたい。</p>

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
						し、授業の参考とした。			
2 生徒指導・支援	<p>①部活動の一層の活性化を図るとともに、部活動を通じたリーダーシップ教育を推進する。</p> <p>②教育相談体制をさらに充実させ、組織的な生徒支援を行う。</p>	<p>①部活動の入部率を昨年度より3%以上の上昇を目標にし、全校で90%以上の加入率を目指す。また、リーダーシップ研修会で得た事を実践し、仲間との協働、協力、切磋琢磨を経験し、実績の向上につながる活動ができるようにする。</p> <p>②年次団、教科担当者と連携し、個々の生徒に応じた支援ができる体制を作る。</p>	<p>①5月の連休明け及び夏季休業後に退部した生徒も含めた未加入生徒を対象に、生徒会支援Gが中心となり年次団と協力し、加入推進の働きかけを行い加入率アップを目指す。</p> <p>②生活支援グループ会議では各年次担当者からの情報を交換する時間を設ける。</p>	<p>①部活動の入部率が90%以上になったか。</p> <p>②生活支援グループ会議での情報交換の結果を職員全体に周知する機会を定期的に設けたか。</p>	<p>①5月の段階で86.2%で達成はできなかったが、引き続き未加入生徒の加入推進を行っていく。</p> <p>②カウンセリングの結果はその都度教育相談担当者・養護教諭・担任・生活支援リーダーで共有し、必要に応じて年次グループへ情報提供している。生徒の</p>	<p>①9月・12月に未加入の生徒を対象に加入推進のイベントを行い、加入率のアップを図った。</p> <p>②カウンセリングは生徒のきわめて個人的な相談になる場合があり教員間の情報共有については、常に慎重を期す必要がある。今後も、この点に注意しつつ、必要な情報は共有して生徒の指導に生かすよう努めていかねばならない。</p>	<p>①部活動加入率が90%に近いということは素晴らしいが、やめてしまう理由を検証し、加入率アップにつなげてほしい。また、休日の設け方や外部指導者の活用等、教員の負担を考え、バランスを大事にしてほしい。</p> <p>②挨拶や清掃の徹底等、学習環境がよく整えられている。心身の問題等についてもきめ細やかな指導をお願いしたい。</p>	<p>①90%は達成できなかったが、それに近い数字を達成することができた。しかし、やめてしまった生徒に対する呼びかけ、勧誘等が不十分である。</p> <p>②必要に応じてケース会議やコア会議を開催し、情報を共有してきたが、やや不十分な点がある。</p>	<p>①年2回の加入イベントの回数、方法等を見直すとともに、定期的に未加入生徒の確認を行う。</p> <p>②定期的にケース会議を開催し、職員間の情報共有の徹底を図りたい。</p>



視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	②ボランティア活動等を通して、地域と連携した教育活動を推進する。	②地域貢献活動の計画的実施と地域連携の一層の推進を図る。また、生徒によるボランティア活動の充実を図る。	②旧モーガン邸の保全活動・土嚢作り・地域清掃を3本柱にした計画をたて、10月実施に向けて準備を整える。 「アジサイまつり」「藤沢宿まつり」等の地域イベントへ生徒会役員・ボランティア部・ボランティア委員が、積極的に参加する体制づくりを確立させる。	②地域貢献活動が計画的に実施できたか。生徒によるボランティア活動の参加が、前年度より延べ人数で10%以上増えたか。	②雨天で順延となったが、予定通り実施できた。生徒の積極的な姿勢が見られた。ボランティア活動は昨年同様、積極的な参加状況が見られ、延べで11%の参加上昇があった。	②3本柱となる計画の充実を図り、よりよいものにしていく。関係生徒の参加状況は十分であるが、一般生徒の参加を積極的に呼びかけていきたい。また、活動成果などを発表する機会を検討したい。	②地域との交流は高校生にとって得るものが多い。是非、今後も継続し、より一層発展させてほしい。	②全体的に参加については上昇傾向にある。今後は、一般生徒の参加を増やしていきたい。	②学習成果発表会やFesta 清流等を利用して、全校に広くアピールする場を設ける。
5 学校管理 学校運営	①教育環境の整備に努め、安全安心で、明るい学校づくりを推進する。  ②事故・不祥事防止を徹底し、職員が前向きに取り組める、風通しの良い職場づくりを推進する。	①日常的に元気の良い「挨拶」が飛び交うように心がけ、明るい学校づくりに努める。	①毎週1回定期的に生徒会役員が中心となり「あいさつ運動」を定着させる。また、委員会・部活動の生徒にも協力を依頼し「あいさつ運動」の拡大を計画する。	①日常的に元気の良い「挨拶」が飛び交うような明るい雰囲気の学校になっているか。	①ほとんどの生徒が挨拶をできる環境が整っており、外部の来校者からもよい評判を得ている。	①あいさつ運動の推進で委員会や部活動が参加する計画を検討していきたい。	①創立当初より挨拶がともしっかりしている。これは、大きな財産である。今後もこの特色を継続して行ってほしい。	①今現在、生徒が自発的に挨拶をするようになってきている。教員が指導する段階は終わり、次のステップにきている。	①今後も挨拶に関する取り組みを継続していく。また、近隣の小中学校及び自治会等と連携し、挨拶の輪を地域に広げていきたい。